

## 九〇〇号記念誌上展のご案内

来年、令和七年の二月号で書廷誌が創刊九〇〇号という偉大な節目を迎えることになりました。書道の競書誌は数多くあるとはいえ、九〇〇号に達する競書誌は数少ないのではないのでしょうか。「書廷」は、昭和二十五年三月発刊以来、一度も遅滞・休刊することなく刊行されてきました。五百号以後、百号ごとに「記念誌上展」を行ってきましたが、今回も「九〇〇号記念誌上展」を開催致します。

書廷会では、令和二年に創立七十周年記念展を実施しましたが、この誌上展と記念展は書廷会の存在感を明示する好機となっています。また、令和四年からは、推薦合格者を対象とした「創作部門」を新設しましたが、多くのすばらしい作品が寄せられ、書廷誌の新たな魅力ともなっています。今回の九〇〇号記念誌上展では、創作部門に準じて、一般・学生の全ての人々が自由に課題を選んで出品できるようにしました。この号が充実した記念号となりますよう、各位にはよろしくご協力の程お願い申し上げます。

令和六年七月

書道研究書廷会会長 高橋 香樹

### 一般部要項

#### 一、同人・準同人・支部長・推薦

賛助出品とし、出品者全員の作品を掲載します。

・作品サイズ 毛筆作品で半切以下縦横自由

・申込期間 九月六日(金)～十一月二十二日(金)

・出品締切 十二月十日(火)

#### 二、毛筆部(準推薦～八級)・硬筆部(正教授～八級)

特別昇試を実施します。

・出品規定 十一月号発表(通常の昇級試験と同様)

※硬筆部は自由課題(参考課題手本掲載あり)

・作品締切 十二月二十二日(日)

#### 三、漢字かな交じりの書部門

資格に関係なくどなたでも出品可。

参考課題は十一月号に掲載。自由課題も可。優秀作品掲載。

#### 四、一字書部門

資格に関係なくどなたでも出品可。

自由課題。優秀作品掲載。

### 学生部要項

#### 毛筆部の特別昇試とする

\*硬筆部は前月が昇級試験のため通常対応、特別昇試はしない。

・最優秀合格者：書き初め作品 半切1/4 自由課題(過去の課題可)

・最高以下：半紙たて作品 特別昇試参考課題は十一月号に掲載・過去の課題・自由課題も可

・出品締切 十二月二十日(金)

特典 一般・学生とも優秀者には賞状賞品を授与

※詳細は九月号に掲載します。

## 一字書課題

(8月22日締切)

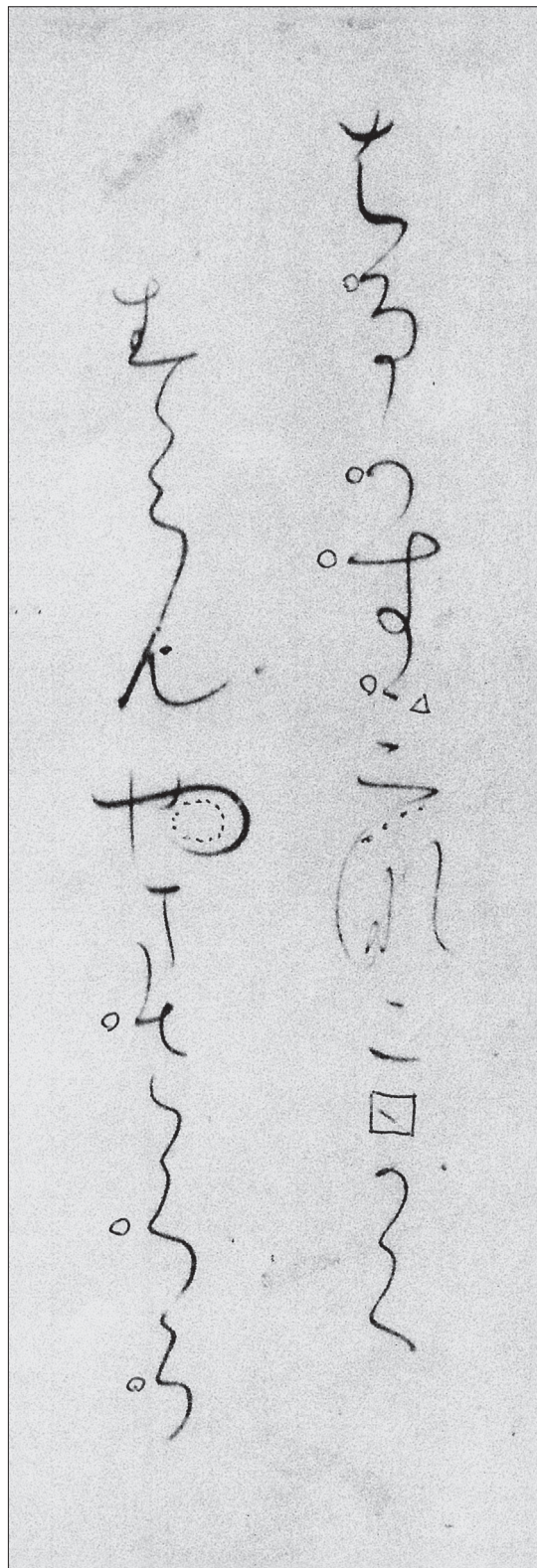
# 稀

(1)書体自由 (2)半紙タテ

(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる (4)出品料 四四〇円

(5)バーコード券の余白に「一字」と記入

※字典(『五體字類』『新書源』など)を開き、書いてみたい書体を選ぶことを楽しんでください。



2、形式 半紙をたてに使い、小筆で二行に書く。左余白に、全体のまとまりを考えて「○○臨」と入れる。

3、概観 前より小筆を使用する臨書に入っています。今回は小筆の先を生かした臨書の学習です。いきなり6文字連綿の「者る可す三那」から始まり、途中は3文字・3文字の比較的短い連綿でひと息入れながら「や万さくら」と5文字を続けて書きます。墨つぎの場所はどこか。墨量はどの程度がよいか。運筆の速度と墨持ちの関係は? 「6文字」「4文字(万さくら)」の連綿が可能になるコツはどこにあるのか。学ぶ内容は満載です。

4、連綿の中にある丁寧に見ておきたい筆遣いなど  
 ① 者る可す三那  
 鋒先を整え、天女の羽衣が石に軽くふれるように入筆する。

「る・可・す・三」のそれぞれの始めはきちんと当たる(○)。「可」の一筆目は連綿により省略されている。「三」から「那」へはゆったりと(…)運筆。「す」から「三」の一筆目を書いたあと(△)ひと息入れて、次の連筆に備えることができる。

② 二可久  
 少量の墨つぎで始める。「可」の一筆目(□)があることに注意。

③ 春らん  
 ひと息で連筆する。「ん」の折り返し(・)を丁寧に。

④ や万さくら  
 「や」の大きな空間(○)に注意。当たって(○)右方向へ連筆。

条幅随意参考

『者る可す三那二可久春らん や万さくら』  
 (半紙臨書課題と同じ語句)

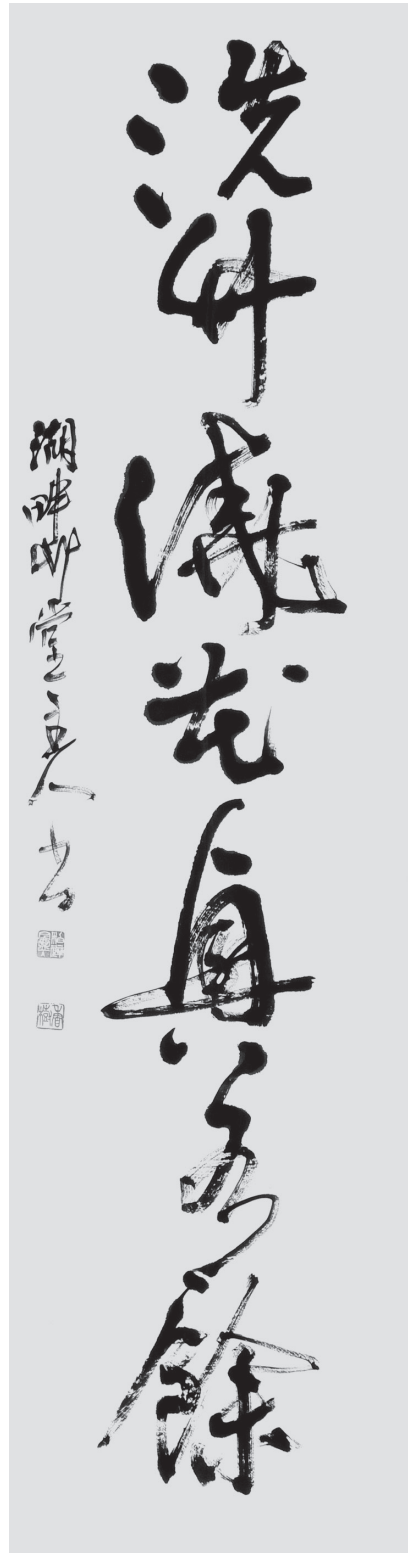
墨量に注意し、鋒先をきかせた緊張した線で二行に臨書する。全体の調和を考えて、「○○臨」と入れる。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部(無料)にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

A 高橋香樹会長書

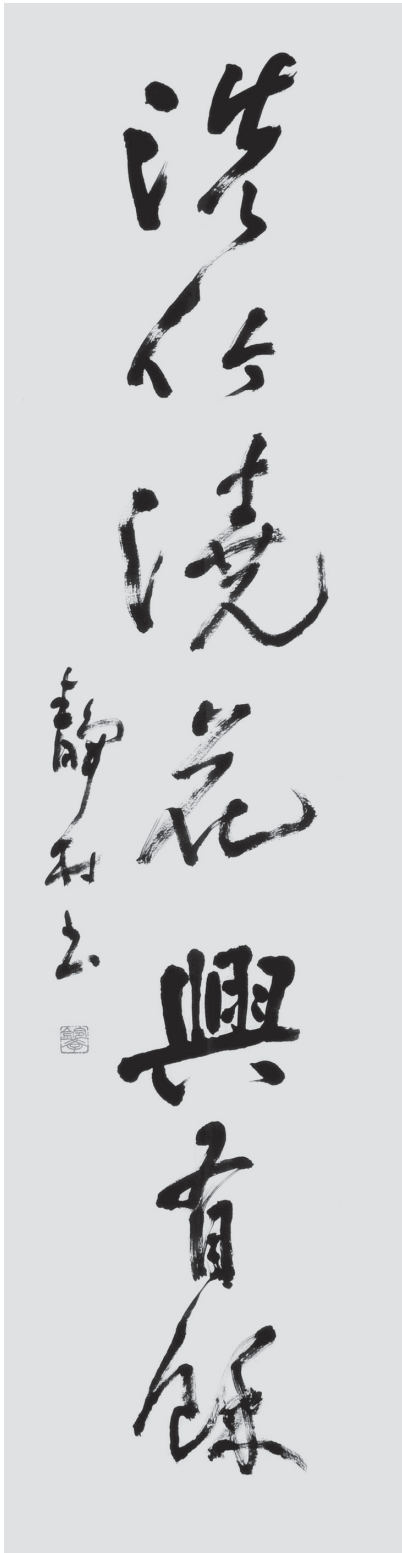
洗竹澆花興有餘(顧況)  
竹を洗い花に澆ぎ興餘有り。

訳：竹を洗い花にふりそそぐ雨には、尽きせぬ興趣がわく。



B 鈴木静村先生書

条幅を書く時は、常に行の流れを意識しますが、今回は、「有」字の右から左への流れる字形を考えた時に、この作の流れができました。「洗」の旁の右から左への斜画に、「竹」の一画目で受け、「澆」の三ズイを、「花」の草冠の点で受ける。「興」で流れを左右にし、「有」で右から左への流れとしました。



戦時中の白茅筆(兼毫)四号を根元いっぱいを使う。腰は勁いが、集鋒力に物足りなさ——。洗 三水偏、ドンドンのリズムで。竹 前字から連続受けスムーズ。澆 三水に一工夫を。興 墨継ぎ、中央部の書き方多様。各目の字典参照。餘 偏旁の釣り合いよく、一行作の締めとして。

予告 昇試第一部漢字(九月二十二日締切)

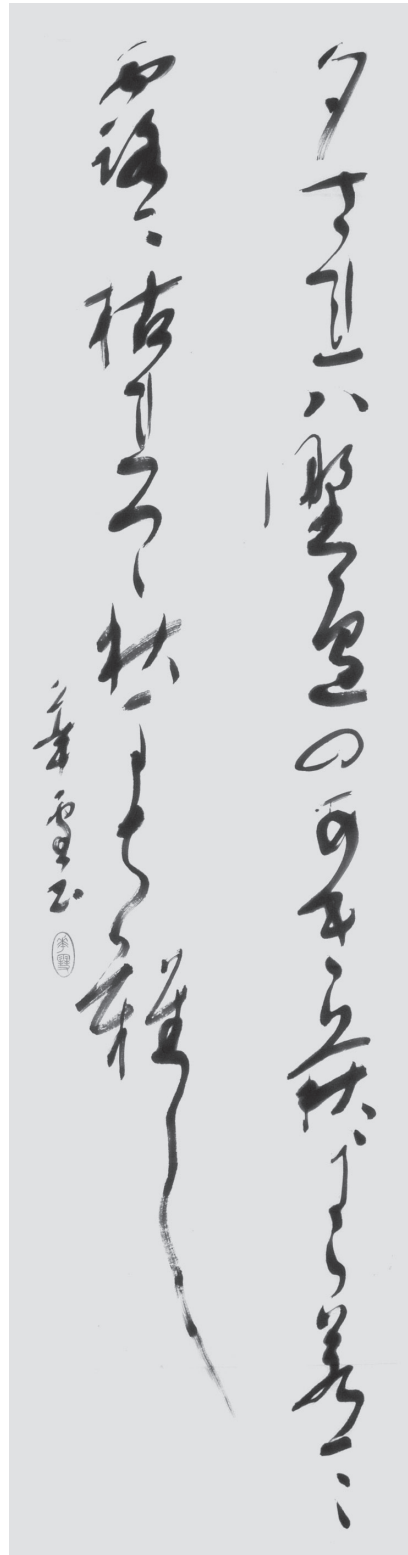
環山翠黛是城郭 平地白雲皆海濤(虞集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

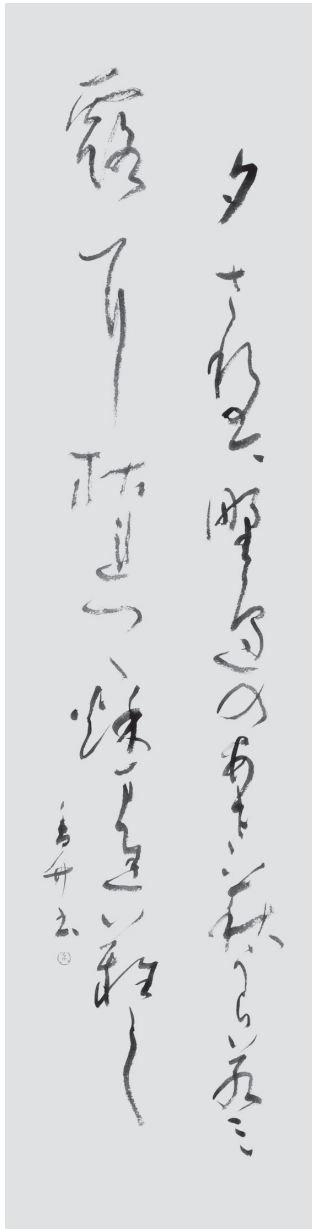
夕されば野辺の秋萩うら若み露に枯れつゝ秋待ち難し(訓読万葉集 柿本朝臣人麿)  
夕さ連八野邊のあき萩うら若三露二枯連つゝ秋万ち難し



B

青柳香竹先生書

夕され盤野邊のあき萩うら若三露耳枯連つゝ秋万遅難し



柿本朝臣人麿

(生没年不詳)

万葉集以外には記録はな  
く履歴は不明、集中で人  
麿作とされる歌は八四首、  
持統、天武天皇の行幸に  
従った際の歌や皇子、皇  
女への挽歌など、宮廷を  
中心に活動した歌人。柿  
本人麿歌集の歌も三六四  
首収蔵される。のちに歌  
聖とされた。

学 び 方

歌意：夕方になると野辺の秋萩の枝先の小さな葉が露によって色付き枯れる。秋が待ちきれないように。「あき」が三ヶ所あります。「あき」「萩」「萩」で変化をみました。

二行目に露・枯・萩・難と漢字を入れると、紙面が引き締まり、リズム感が際立ちます。太・細の変化も入れました。二行書きは余白の広さ、行間の変化に心して。余白の広さが目立ちすぎると、字の弱さが出て貧弱になります。二行が近すぎると、作品がすっきり見えません。こんなことも気にしながら書いてみましょう。

予告昇試第一部かな(九月二十二日締切)

木の間よりもりくる月の影みれば心づくしの秋はきにけり(古今和歌集 よみ人しらず)

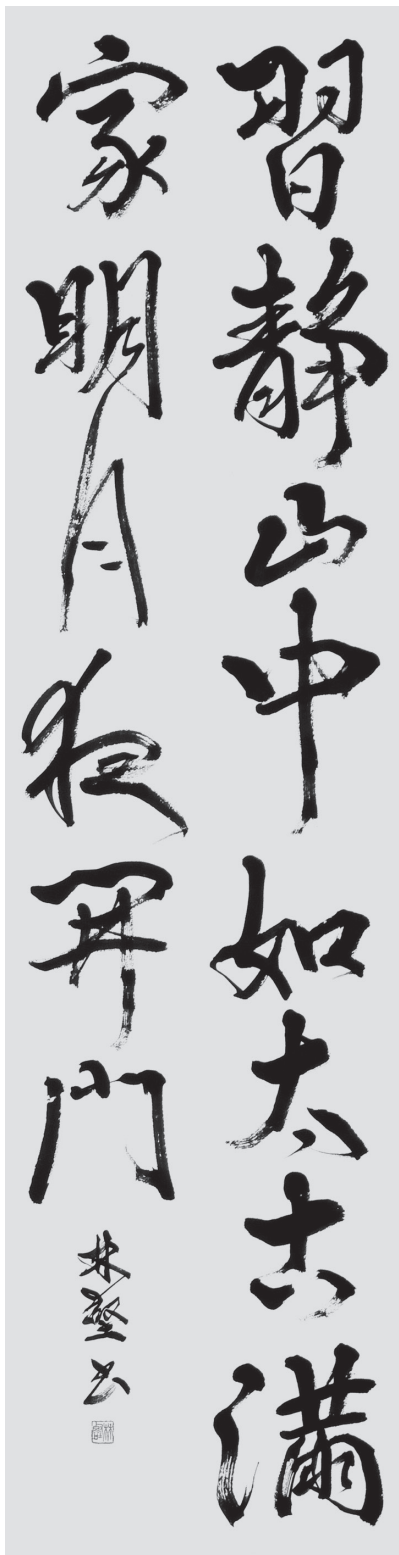
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

高山林壑先生書

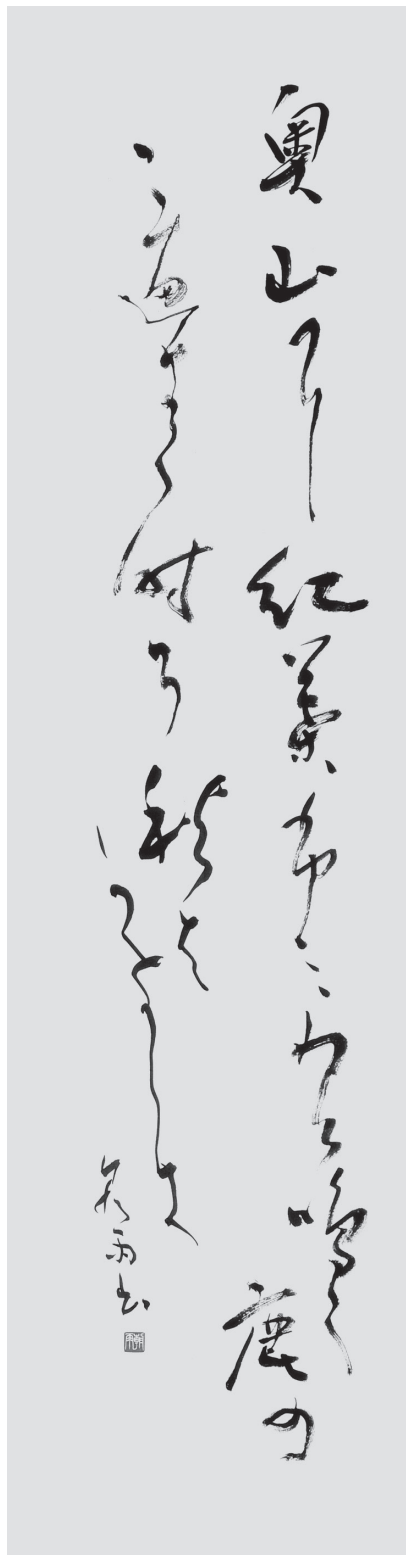
習静山中如太古 満家明月夜開門（沈石田）  
習静山中太古の如く、満家の明月夜門を開く。



訳：静かさを習う山中は宛然たる神代のように、家中をてらす明月の夜には門を明け放すのである。

槍田朝雨先生書

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声きくときぞ秋はかなしき（猿丸大夫）  
奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声きくときぞ秋はかなしき（猿丸大夫）



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

### 平岡華雪先生書

仁義以って人を利す。

訳：利は益、仁義によって人を益し、  
(忠信によって人をみちびく。)

〈基礎用筆に習熟を〉

「仁・利・人」の一画目、「義」の二画目の入筆に留意。これは、左方向から入り、一旦止めて、パネで左下方に、引っ掻く。基礎用筆の一つ。ぜひ、練習して会得して下さい。



### 漢字部課題参考 (八月二十二日締切)

予告 昇試第三部漢字 (九月二十二日締切)

時還讀我書 (多紀元堅)

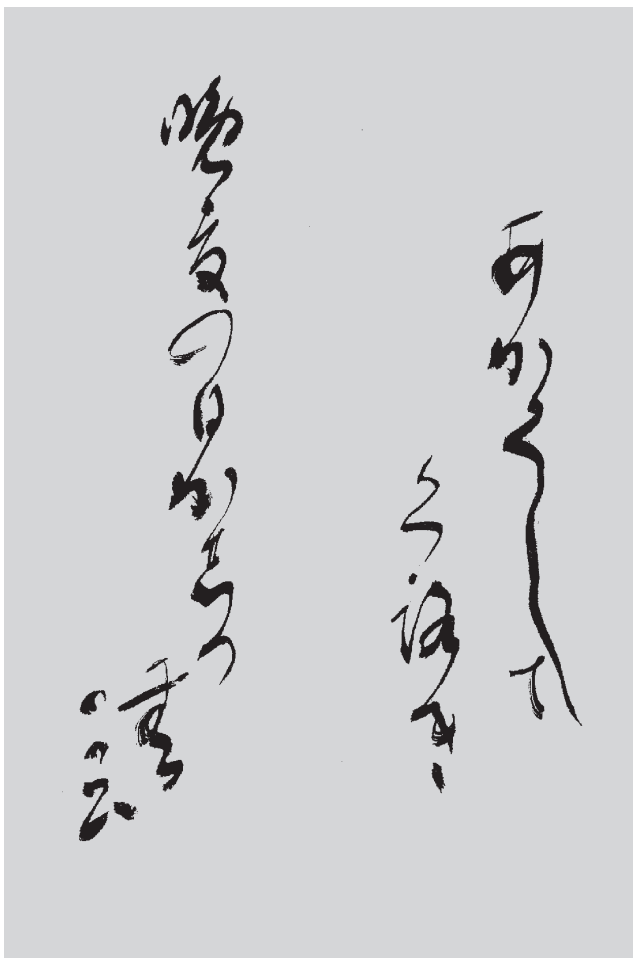
### 平岡華雪先生書

あかくして黒き晩夏の日が沈む(誓子)

あかくして久路き晩夏の日か志つ無

〈部分練習から快筆作へ〉

右群の「久し」を強調、「し」がポイント。線の引き緊まりが肝要。「久路き」太細の配合に注目のこと。「夏」草体、一画目の点は、連綿の中で筆を一瞬置く感じ。「無」を活かしてほしい、効果的に。



### かな部課題参考 (八月二十二日締切)

予告 昇試第三部かな (九月二十二日締切)

仲秋や月明かに人老し(虚子)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

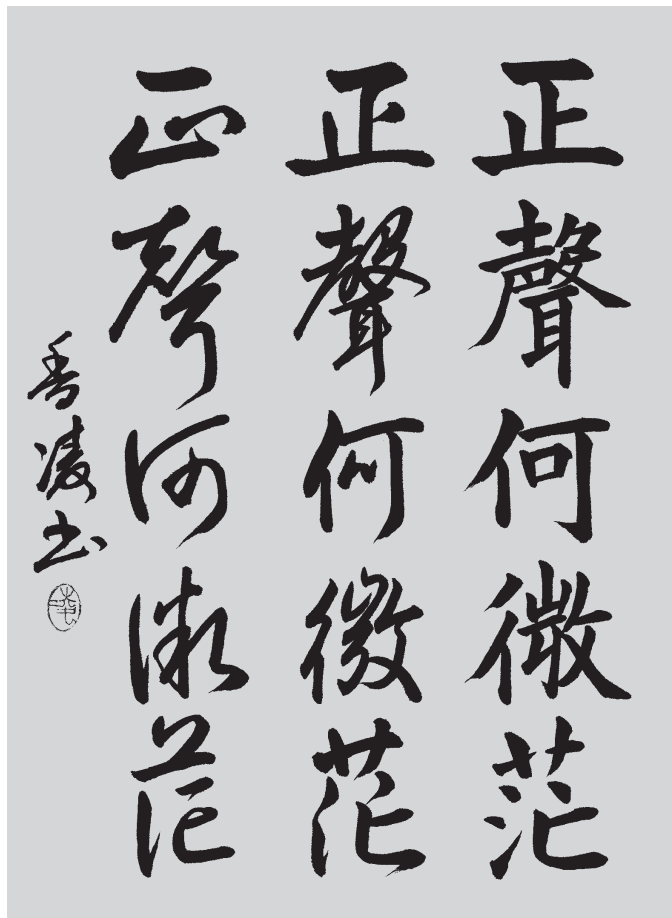
①出品部門(例:「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (八月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (八月二十二日締切)

予告 昇試第二部漢字 (九月二十二日締切)

哀怨起騷人 (李白)



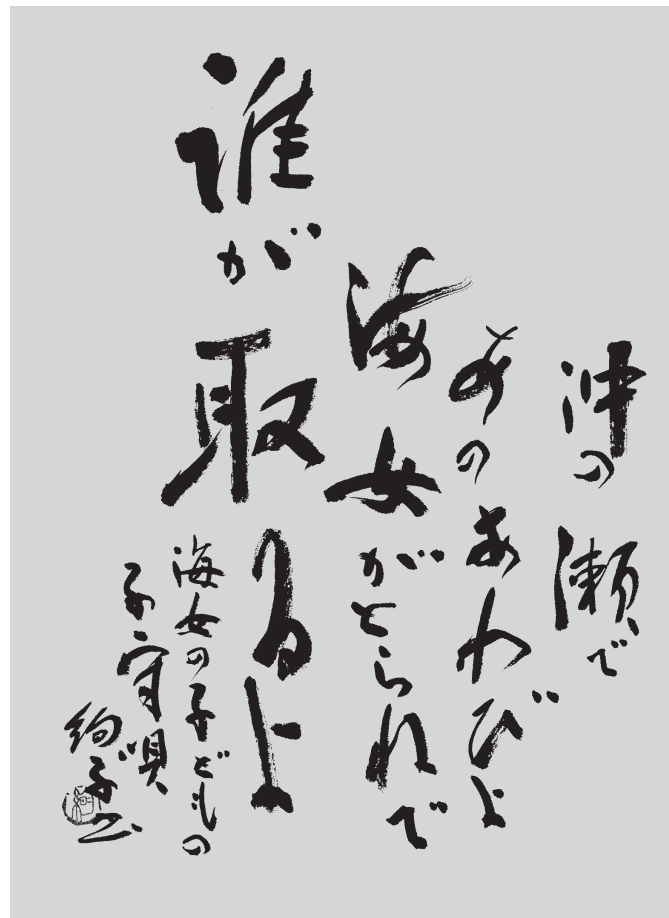
高橋香凌先生書

正聲何微茫 (李白)

正聲 何ぞ微茫たる

訳…詩歌の正しい声は、何と微茫になったことか。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。



宮 絢子先生書

沖の瀬で

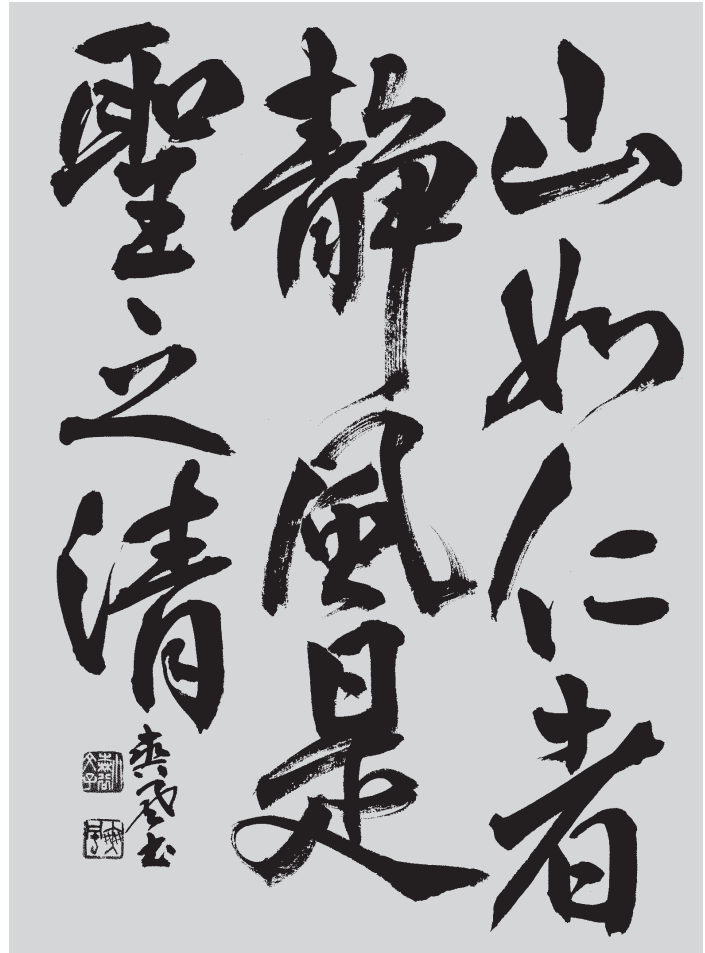
あのあわびよ海女がとらねど 誰が取るよ 『日本の子守唄』(西館好子)(ユニコ舎刊)

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

小森谷爽風先生書

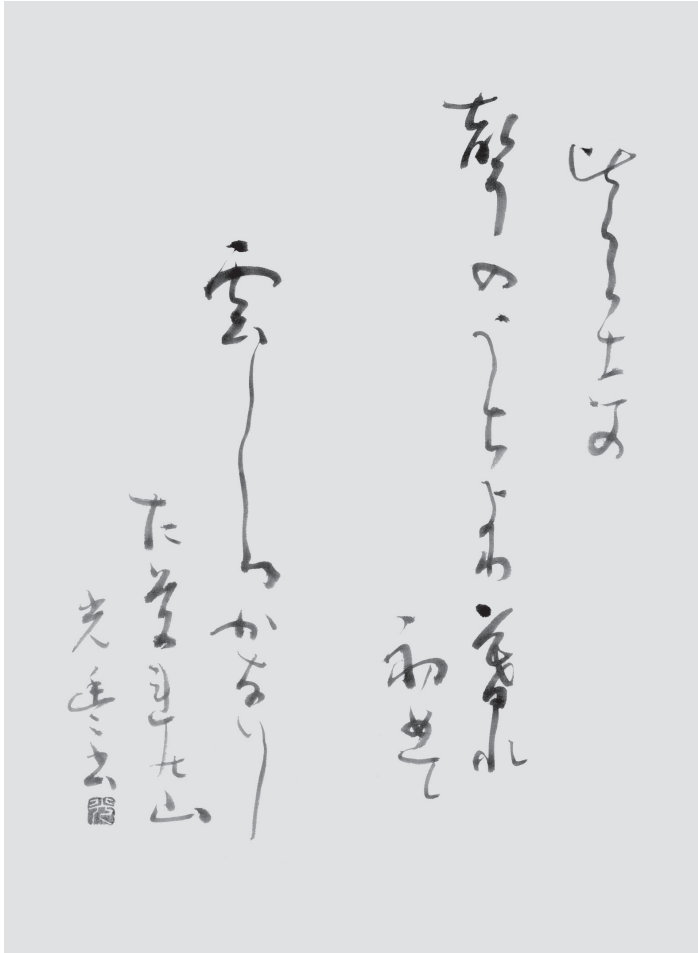
山如仁者静 風是聖之清 (彭汝礪)  
 山は仁者の静の如く、風は是聖の清。



訳：山は不動のすがたで仁人が静かなるに似ており、風はすぐれて聖人の清きに比すべきである。

絹村光豊先生書

ひぐらしの声のうちより暮れ初めて雲しづかなりたそがれの山 (松平定信)  
 比久ら志の聲のうちよ利暮れ初めて雲しつか奈りたそ可連能山



(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

随意部参考

予告 昇試第二部かな (九月二十二日締切) ふるさとの庭は木の葉に色かへて変らぬ松ぞ緑なりける (惟宗廣言)



稲畑 暉穂 先生書

本澤 優香 先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

尾瀬ヶ原の基床を成すものは水蘚  
で、厚さ数十尺に及ぶという。従って  
浮島なども形成されている。

尾瀬は日光と共に山中の水郷である。  
大小幾多の池沼と湿原とが至る処に  
展開し、これ程水郷と呼ぶに適した  
場所は他に少ないであろう。

課題 1 (初段階以上)

尾瀬は日光と共に山中の水郷である。大小幾多の池沼と湿原とが至る処に展開して、これ程水郷と呼ぶに適した場所は他に少ないであろう。

(木暮理太郎『山の憶い出』)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

尾瀬ヶ原の基床を成すものは水蘚<sup>みずけけ</sup>で、厚さ数十尺に及ぶという。従って浮島なども形成されている。

(木暮理太郎『山の憶い出』)